

No.7 北東航路探検クルーズ ノルデンショルドの足跡を訪ねて 19 日間 ※新コース

スウェーデン系フィンランド人の探検家ノルデンショルドは世界で初めて北東航路を航行し、その後カムチャツカ半島を南下し日本を訪れ、インド洋、スエズ運河を越えスウェーデンに帰国する偉業を成し遂げました。彼らは北東航路で島や場所を多く発見しました。

この探検クルーズではセヴェルナヤ・ゼムリヤ、ニューシベリア諸島、ノヴァヤ・ゼムリヤ、チェリウスキン岬、ノルデンショルド諸島、デロング諸島などノルデンショルドの航路に従ってご案内します。北極圏の短い夏の繁殖機間は終わりますが、これらの地域では野生動物が豊富に生息しています、ホッキョクグマとの出会いは間違いなく期待できます。3 種のセイウチ、3 種のクジラ、3 種のゾウゲカモメを観察するチャンスもあります。

●旅行期日：2021 年 9 月 12 日（日）～9 月 30 日（木） 19 日間

●乗船地／解散地：ムルマンスク／ペヴェク ●食事条件：朝食 18 回、昼食 17 回、夕食 18 回

●クルーズ代金（大人／お一人様） ※単位：米国ドル（US\$）

利用客船		アカデミック・ショカルスキー
旅行開始日		9 月 12 日（日）
旅行終了日		9 月 30 日（木）
日 数		19 日間
客室タイプ	メインデッキ	13,900
	スーベリア	14,900
	スーベリア・プラス	15,900
	ミニ・スイート	16,900
	ヘリテージ・スイート	17,900
ローカルペイメント		500

（備考）ローカルペイメントは、ご乗船後、米国ドルの現金でお支払いいただきます。



●スケジュール

日次	月日（曜）	日 程		食事	宿泊
1	9/12（日）	午前	アカデミック・ショカルスキーに乗船	○	船中
		夕刻	ムルマンスクを出港		
2	9/13（月）	終日	バレンツ海クルーズ	○○○	船中
3	9/14（火）	終日	バレンツ海クルーズ	○○○	船中
4	9/15（水）	終日	ノヴァヤ・ゼムリヤ観光	○○○	船中
5	9/16（木）	終日	ノヴァヤ・ゼムリヤ観光	○○○	船中
6	9/17（金）	終日	イサチェンコ島観光	○○○	船中
7	9/18（土）	終日	ノルデンショルド諸島観光	○○○	船中
8	9/19（日）	終日	ノルデンショルド諸島観光	○○○	船中
9	9/20（月）	終日	セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光	○○○	船中
10	9/21（火）	終日	セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光	○○○	船中
11	9/22（水）	終日	セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光	○○○	船中
12	9/23（木）	終日	タイミル半島とラプテフ海観光	○○○	船中
13	9/24（金）	終日	タイミル半島とラプテフ海観光	○○○	船中
14	9/25（土）	終日	ニューシベリア諸島（ノヴォシビルスク諸島）観光	○○○	船中
15	9/26（日）	終日	ニューシベリア諸島（ノヴォシビルスク諸島）観光	○○○	船中
16	9/27（月）	終日	デロング諸島観光	○○○	船中
17	9/28（火）	終日	東シベリア海クルーズ	○○○	船中
18	9/29（水）	終日	メドヴェジイ諸島観光	○○○	船中
19	9/30（木）	午前	ペヴェク入港／下船 ※下船後、市内のホテル或いは、空港まで無料送迎いたします。	○	



●詳細日程

第1日目 ムルマンスク（ロシア）にて乗船、出港

ムルマンスクはロシア砕氷船の本拠地で、ロシアの歴史を通して戦略的に重要な港として紹介されています。

午後、ムルマンスク港でアカデミック・ショカルスキーに乗船します。夕刻、ムルマンスクを出港後、スタッフと乗組員の紹介や安全についての説明会を予定しています。

第2～3日目 バレンツ海クルーズ

バレンツ海は 1594 年と 1596 年の 2 度にわたりこの海域を探検したオランダの航海士で探検家のウィレム・バレンツに敬意を表し命名されました。2 日間の航海中にレクチャー・シリーズ(北極講座)が始まります。北に向かうにつれ、多くのザトウクジラやタテゴトアザラシが見られるでしょう。

第4～5日目 ノヴァヤ・ゼムリヤ観光

この2日間は人里離れた山岳地帯の群島ノヴァヤ・ゼムリヤ(新しい大地の意味)を探索する予定です。

めったに訪れることのできないこの島は壮大な氷河、険しい峰、豊かな野生生物や歴史に囲まれ、狭いマトチキン海峡で隔てられた 2 つの大きな島と無数の小さな島々で構成されています。

スポーリー岬、オランスキー諸島、ナヴァロク、ジェラニヤ岬、ルスカヤガヴァニ、イノストラツェフ湾など様々な上陸地点を探索しながらセヴェルヌイ島(北島)の北極砂漠や海外線に沿った新しい風景を発見しましょう。自然のままの北極の荒野をお楽しみください。

手付かずの高緯度北極圏の美しさと野生生物の楽園として知られているこの場所では、上陸観光とゾディアッククルーズで迫力のある崖や氷河、海岸を訪れ、タテゴトアザラシ、ワモンアザラシ、アゴヒゲアザラシ、ホッキョクグマ、トナカイ、ホッキョクギツネ、セイウチの群れ、クジラ、ハヤブサ、コベネヒワ、シロフクロウ、ウミスズメ、ツノメドリなどの多種多様な鳥を探します。

第6日目 イサチェンコ島観光

東へ航海し、カラ海のキーロフ諸島グループで最大のイサチェンコ島に到着します。氷や天候状況が許せば、ツンドラで覆われたこの遠隔の島へ上陸を試みます。ロシア北極圏大自然保護区の一部であり、人里離れた極砂漠研究基地の本拠地やイサチェンコ島の砂浜と沿岸のラグーンや豊かな潮間帯では野生生物が多くホッキョクグマがよく訪れます。午後、ノルデンショルド諸島に向かいます。

第7～8日目 ノルデンショルド諸島観光

カラ海の東部地域にある約 90 の島からなる、あまり知られていないノルデンショルド諸島では、めったに訪れることのできない地域を探索しながら真の探検旅行を楽しみます。

ほぼ一年中氷に囲まれた人里離れた吹きさらしの地域で、諸島最大の島であるルスキー島には 1999 年に閉鎖された有名な極地研究基地がありました。この島は 1893 年～1896 年のフラム号遠征でノルウェーの極地探検家フリチョフ・ナンセンによって命名されています。1900 年のロシア極地探検で、フォードル・アンドレエベッチ・マーチセン船長は諸島の大部分を地図し島を命名し、ノルデンショルドに敬意を表して諸島を命名しました。

第9～11日目 セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光

この諸島は「北方の土地」を意味し、カラ海とラプテフ海の境界にありタイミル半島の延長上にあります。これらの島々は、1914～15 年にロシアの探検家ヴィルキツキーが地図するまで発見されていませんでした。これは地球上で最も新しく発見された重要な諸島です。3 つの大きな島は深いフィヨルドによって頻繁に氷河を形成し、定期的に冰山が排出されるため、素晴らしいクルージングをお楽しみ頂けます。ここはゾウゲカモメにとって最後の拠点の 1 つですので、営巣地を訪れる機会があるかもしれません。

第12～13日目 タイミル半島とラプテフ海観光

セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島とロシア本土を隔てるヴィルキツキー海峡を渡ってラプテフ海に入ります。ここはユーラシア大陸の最北端でもあります。ここは私たちの旅行において重要な通過点です。氷がなくなり、生物学上では大西洋と太平洋の野生生物に分かれる最後の地点です。ラプテフ海の西側はタイミル半島とセヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島、東側はニューシベリア諸島に囲まれています。北極圏の探検家だったラプテフ従兄弟にちなんで名付けられました。

レナ川とヤナ川の 2 つの大きな川はこの海に流れ込みます。ラプテフ海の西岸に沿って、先端にあるタイミル半島とチェリユスキ岬を探索します。チェリユスキ岬はこの探検クルーズで特に興味深い場所で、ベガ号の乗組員がここへ立ち寄ったときの探検の進捗状況を石の記念碑の下にメッセージを残しています。

ラプテフ海セイウチはこの地域でのみ見ることができます。私たちはこのユニークで孤立したセイウチの群れを撮影することができる場所を探します。

第14～15日目 ニューシベリア諸島(ノヴォシビルスク諸島)観光

主に南部(リャーホフスキー諸島)と中部(アンジュー諸島)、北部(デ・ロング諸島)からなる 3 つの主要なグループで構成され、ラプテフ海と東シベリア海の境界となっています。有名な極地探検家兼研究者フリチョフ・ナンセンが、北極海の流氷に密閉されて漂流しながら北極点に到達しようとした探検で、フラム号を流氷に浮かべたのはこの辺りでした。ここはマンモスやサイ、その他の極北の更新世の動物の化石の宝庫で有名です。島の探検中に化石を発見する事は、珍しい事ではありません。条件が許せば 3 つの主要なグループの島々を訪れ、ユニークな地質や風景などを探索する予定です。グループの中で最も標高の高い島は、群島の最も北にあるベネット島です。グレート・リャーホフスキー島の南岸には、活動中の気象観測所があり、僅かな職員が常駐しています。

第16日目 デロング諸島観光

ニューシベリア諸島の一部で、ベネット島、ヘンリエッタ島、ジャネット島、ソホフ島、ヴィルキツキー島など小さな無人島からなる群島です。これらはかつて大北極平野の丘陵でした。部分的にまだ氷河に覆われ、東シベリア海で発見された最後の諸島の 1 つでした。これは USS ジャネット号のジョージ・ワシントン・デロングが指揮した不運なアメリカ探隊にちなんで名付けられています。

彼らの探検船は 1879 年 9 月にヘラルド島の近くでの厚い氷に閉じ込められ、1881 年 6 月にジャネット島の近くの海氷に破壊されるまで数百マイルも漂流しました。彼らは沈没船の救命ボートでコリマ川のデルタ地帯に向かいました。そこでデロングを含む多くが亡くなりました。

第17日目 東シベリア海クルーズ

この海は西のニューシベリア諸島と東のウランゲリ島の間にあり定義されています。南岸に沿ってインディギルカ川、アラザヤ川、コリマ川のシベリアの 3 つの主要な川があります。この海の平均深度は僅か 54m でセイウチやホッキョククジラにとって理想的な生息地です。

第18日目 メドヴェージェイ諸島(ベア諸島)観光

ほとんど知られてなく、めったに人間が訪れる事もない、花崗岩からなる 5 つの群島のメドヴェージェイ諸島(ベア諸島)を探索します。名の通り冬の間、これらの島々の岸辺に巣を作る多くのホッキョクグマがいます。チェティリョフストルボヴォイ島の上陸では、遠くから見るとモアイに似ている珍しい岩「ピローズ」へのハイキングを予定しています。永久凍土が解けてゆっくりと海に流れ落ちる様や、永久凍土の上に建つ気象観測所が、ゆっくりと崩壊する様子が見て取れます。オストロフ・ブシュカレヴァ島では、古い灯台の見学や広大なツンドラに咲き誇る北極の花々をお楽しみいただきます。

第19日目 ベヴェク入港/下船、解散

朝食後、下船します。空港または中心地にあるホテルへ無料送迎いたします。

ロシアで最も人里離れた最北端の町の 1 つであり深海港のベヴェクは好景気の最中で極東チュクチ地域の重要な経済およびインフラの中心地になりつつあります。

